

## 洪水時の浸水被害を軽減！さらに雨水利用

### －タイでプラスチック製雨水貯留構造体の展開を目指す－

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において秩父ケミカル株式会社(東京都千代田区、吉田寿人代表取締役)が提案する「プラスチック製雨水貯留構造体の案件化調査」(タイ)を採択しました。

降雨量の多いタイでは、洪水被害が頻繁に発生しており、下水道および排水施設の未整備が問題となっています。特に2011年のタイの大洪水で日本のサプライチェーンに影響を及ぼしたことは記憶に新しいところです。

秩父ケミカル株式会社が開発したプラスチック製雨水貯留構造体は、被包するシート構成を変更することで、雨水を地中に浸透させない貯留型、その逆の浸透型、また、貯めた雨水を有効利用する利用型として活用することができます。

また、材質がプラスチックで軽量なためコンクリート製等と比べ工期が短くて済むのも特徴です。

今回の調査ではバンコクを中心に浸水被害や雨水利用、地盤状況の実態を調査し、プラスチック製雨水貯留構造体の展開可能性を検討します。



ニュートレンチくん

(浸透型)



プラダムくん

(貯留型・浸透型)



プラスプール

(利用型)

(注) 案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行うもの。企業は、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を行う。2012年度から実施されており、2017年度第1回分は今年3月に公示を行い、36件が採択。(参考サイト：[https://www.jica.go.jp/press/2017/20170620\\_01.html](https://www.jica.go.jp/press/2017/20170620_01.html))

#### 【本件に関する問い合わせ先】

JICA 広報室報道課 宮田

TEL 03-5226-9780 e-mail : Miyata.Naoaki@jica.go.jp